

計画全体の実施スケジュール

防除の目標:	固有の生物相を有し、多くの希少種の生息地であるやんばる地域の生態系を回復し、安定した状態で保全するために、マングースによる生態系への影響を将来にわたって排除し、長期的な観点から防除コストを最小化することを踏まえ、SFラインに設置されている第1北上防止柵以北の完全排除地域からの平成34年度までの完全排除及び当該地域へのマングースの再侵入を防止する。										
年度	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	
<p>目標1: 完全排除地域からマングースを完全排除する</p> <p>作業1-1: 完全排除に向けて順次地域根絶を達成するために、完全排除地域を8つの根絶作業区域に分割し、北側から根絶を達成していく。</p> <p>作業1-2: 各根絶作業区域をマングースの生息密度に応じて、5つの段階に分けて、各段階の実施内容に応じて作業を行う。</p>											
<p>目標2: SFライン以南からの再侵入を防止する</p> <p>作業2-1: バッファゾーンから完全排除地域への侵入低減化のために、SFライン北側地域で集中的な捕獲及びモニタリングを実施する。</p> <p>作業2-2: SFライン北側への侵入防止のために、バッファゾーンにおいて、継続的に大きな捕獲圧を投入する。</p> <p>作業2-3: バッファゾーンへの侵入機会を極力減らすために、STライン南側で捕獲作業を行い、STラインへの接近個体を減少させる。</p> <p>作業2-4: SFライン北側、バッファゾーン、STライン南側での作業は、完全排除達成後も継続的に実施する。なお、外来ヘビ類対策も併せて検討を行い、平成34年度までに作業内容を決定する。</p>											
<p>目標3: 在来生物の生息数、分布域等を回復させる</p> <p>作業3-1: 希少種調査のデータを解析することにより、希少種の生息密度、分布域の変化から回復状況を毎年評価する。</p> <p>作業3-2: 希少種の混獲データを蓄積し最新の混獲リスクを把握する。混獲リスクの評価及び対応方針は検討委員会等で協議し、わなの種類、設置時期等の修正により、希少種の回復のための混獲リスク管理を行う。</p> <p>作業3-3: 完全排除達成後も混獲情報以外の各種モニタリング調査を一定期間継続し、在来生物の回復状況を評価する。</p>											
<p>目標4: 防除技術及び手法の新たな開発、改善により事業の効果を向上させる</p> <p>作業4-1: 大学、研究機関、企業などと連携、協力しながら、捕獲効率が高く混獲の危険性の低いわな、誘引餌、毒餌等の新たな防除技術、検出精度の高いモニタリング技術、簡易移動阻止柵等の開発を行う。</p> <p>作業4-2: 上記4-1の技術開発と実証試験を通して効果の認められたものを防除事業に導入する。</p>											
<p>目標5: 様々なメディアを通じた広報及び普及啓発活動により、防除事業への一般市民からの理解と協力を得る</p> <p>作業5-1: 地域住民への広報を通じて、定期的に事業の進捗状況等について積極的に情報提供を行う。</p> <p>作業5-2: 毎年事業成果を報道発表、ホームページで公表するとともに、定期的にパンフレット等を印刷・配布することで、広く情報提供を行う。</p> <p>作業5-3: 生物多様性国家戦略及び沖縄県生物多様性地域戦略の達成状況評価のために進捗、目標達成状況をわかりやすく提供する。</p>											
<p>目標6: 防除事業の実施状況及び成果を定期的に評価し必要な改善を図る</p> <p>作業6-1: 事業成果及び進捗状況の評価、改善点抽出のために検討委員会を年2回開催する。検討結果を基に第2期防除実施計画の修正を図り、より効果的に事業を実施する。</p> <p>作業6-2: 評価及び改善点の検討に基づき、年度ごとに事業実施計画を作成し、事業を実施する。</p> <p>作業6-3: 本計画は、委員会における検討結果等を踏まえ、平成29年度及びその他必要に応じて見直しを行うこととする。</p>											